

# 惨状と混乱

津波によって、水門の上や外に漁船が打ち上げられた久慈港諏訪下地区。工場など、周囲一帯が、がれきの山と化してしまいました



世界最大級の地震が引き起こした津波のすさまじい威力。沿岸部には惨状が広がり、停電、断水、物資不足などによって全市民の生活が大混乱に陥りました。

## 壊滅的被害 尊い命も

3月11日14時46分ころ発生した東北地方太平洋沖地震。久慈市では震度5弱を観測しました。14時49分、大津波警報が発せられると同時に、市は災害対策本部を設置し、沿岸地区に住む1489世帯4300人に避難を指示。消防職員、消防団員などは久慈湊諏訪下、小袖、久喜4カ所の水門を15時まで閉鎖し、懸命に避難を指示して回りました。

しかしマグニチュード9.0という世界最大級の地震が引き起こした津波の威力はすさまじく、沿岸全地区に惨状が広がりました。すべての漁港施設が損壊や



地上施設がほぼ全壊した国家石油備蓄基地。辺り一面が信じられない光景に

## ライフラインも断絶

想像を絶する甚大な被害に加え、停電と断水、電話も一部不通。さらには大きな余震が続いた影響で、11日の避難者は全体で約3000人。市が指定する避難所だけでは足

流出などで大打撃を受けたほか、漁船は全体の9割以上となる572隻(※)が被害に。家屋など建物への被害も大きく、非住家含みで全壊が218棟、半壊は86棟にもおよびりました。(※)

このほか久慈港半崎地区では、久慈国家石油備蓄基地の地上施設がほぼ全壊。北日本造船久慈工場も壊滅的な被害を受けました。

また市の施設である地下水族科学館もぐらんぴあ、もぐらんぴあレストショップも全壊。昨年8月に開所したばかりの海女センターは、施設すべてが流出し、跡形もなくなっていました。

死者3人、負傷者7人(救急搬送)、行方不明者2人。(※) 尊い命までもが津波によって奪われました。



11日夜、1,000人近くが避難した福祉の村。入り切らず、車内で一晩を過ごす人も出ました

りず、自主的に学校などに避難する人が続出しました。

電気や水などのライフラインの断絶は、避難所での生活を困難にし、避難者の不安を大きくただけでなく、市内全体の生活を大混乱に陥れました。大型スーパーでは100以上の行列ができ、水や



すべての棚が空になった市内スーパーのカップラーメン販売コーナー

カップラーメンなどの保存食は売り切れに。電池や医薬品など、物資の不足が続きました。

電気・水道・通信事業者などが不眠不休で必死に復旧作業を進めたことにより、電気や水、電話などが徐々に回復すると、今度はガソリンや灯油などの燃料不足が顕著に。地震直後は、公共交通機関もストップしていたため、ガソリンスタンドでは、燃料を求める車が1キロ以上にわたって渋滞するという異常事態が毎日のように発生しました。

## あまりに深い爪あと

東北地方太平洋沖地震という未曾有の大災害は、すさまじい惨状と、生活の大混乱を引き起こしました。

強い揺れで終わらない。大津波でも終わらない。すべての人の生活に暗過ぎる影響を及ぼした今回の災害の爪あとは、あまりにも深く、大きいものでした。

次のページでは、津波による主な被害状況を写真でお伝えします。

※被害の数値はすべて3月26日現在のものです